

## 平成 27 年度 SEC 国内見学会報告

10月16日、恒例のSEC国内見学会が新潟県柏崎市で開催されました。今年の訪問地は、石油資源開発株式会社長岡鉱業所および南柏崎試掘場と公益財団法人海洋生物環境研究所実証試験場です。参加者はSEC賛助会員13社22名と、SECから6名、協会からは上田事務局長が参加し、合計29名でした（集合写真参照）。

当日はJR長岡駅に集合し、12時過ぎに出発、駅から20分ほどで長岡鉱業所に到着しました。到着後は、長岡鉱業所の概況と南柏崎試掘場の概要について石井所長より説明を受けました。長岡鉱業所は昭和30年の会社設立以来、多くの油・ガス田を発見し、国内探鉱・開発の拠点として重要な役割を担っており、現在も、管内には7箇所の油・ガス田があり、5箇所の生産鉱場において安全生産のための管理を行っています。また、管内の天然ガスパイプラインの総延長は657kmに及び、これらを通じ、地元都市ガス会社や電力会社等へ安定供給を実現しています。南柏崎試掘場は柏崎市街より約8kmの山の中にあり、七谷期緑色凝灰岩層（グリーンタフ層）準までの含油・含ガス状況を探鉱することを目的に掘削作業を行っているそうです。

30分ほど説明していただいた後、再びバスに乗り込み、1時間ほどかけて南柏崎試掘場へ向かいました。試掘場では、立派なやぐらがそびえ立っており（写真参照）、2班に分かれて場内を歩き回りながら器具・設備、地質評価等々の説明をしていただきました。現在、夜業による掘削作業を行っており、油ガス産出の兆候があれば産出テストを実施するようです。40分ほど説明していただいた後、最後にやぐらをバックに記念写真を撮り、試掘場を後にしました。



石油資源開発株式会社 長岡鉱業所 参加者集合写真

再びバスに揺られること 30 分、公益財団法人海洋生物環境研究所実証試験場へ到着しました。当研究所は、発電所の取放水が海域環境や生物に与える影響を科学的に解明する調査研究機関として設立されました。平成 24 年に公益財団法人に移行し、現在では、海洋環境放射能、海域富栄養化、土砂の海域流出、紫外線増加、磯焼けなど海洋生物と海洋環境に関する幅広い調査研究に携わっており、海域生態系への影響予測手法の検討や微量化学物質の海洋環境における実態調査、地球温暖化に伴う海水温上昇、海洋酸性化などの調査研究にも着手しています。今回、見学させていただいた実証試験場は、柏崎刈羽原子力発電所に隣接しており、発電所から放出される実際の温排水と自然海水を利用した応用的な調査研究を行っているようです。最近では、海水・海底土・魚介類に含有する放射能調査、魚介類やサンゴに対する二酸化炭素や温度の影響を調べるための飼育実験等に力を入れているようです。また、生物を対象とした試験を行う際は健全な生物を材料とすることが最も重要であるため、試験生物の飼育・繁殖技術の開発にも力を入れており、これまでに 100 種類を超える水生生物の飼育培養実績があります。

20 分ほど説明いただいた後、こちらでも 2 班に分かれ、施設内を見学しました。施設内には、様々な種類の魚介類が飼育されており、一部ではまさに試験中の水槽もありました。また、展示資料館では研究成果や標本などを見ることができました。最後にこちらでも記念写真を撮り、見学会は終了となりました。



公益財団法人海洋生物環境研究所 柏崎実証試験所 参加者集合写真

最後になりますが、ご多忙の中、快く見学を受け入れてくださった石油資源開発株式会社長岡鉱業所および南柏崎試験場の皆様、公益財団法人海洋生物環境研究所実証試験場の皆様に厚く御礼申し上げます。  
(海野圭祐 記)

